八洲の花言

へ13
3007

中洲之華義自

叙

屬[illegible]京一中[illegible]入[illegible]夫契情ハ

[illegible]金二[illegible]夫[illegible]如何[illegible]

[illegible]園[illegible]ん形三ツ般[illegible]

[illegible]情の契情も。[illegible]仮宅[illegible]

[illegible]虫ハ[illegible]中洲[illegible]

[illegible]樂[illegible]園[illegible]物[illegible]通

[illegible]ハ[illegible]徳利の口と[illegible]

ゆるしたまふ。二階の欄。日く河邊見水
流。紫式部う傳ヘ。紫帯。西の方
艸乃ゝ木。面ちゝ。見て。こゝに。寅卯も
腰なめこう。氣の利。仙人。こゝ間を
消さゞ。ゝ。乙上ゝ落ゝ。人艸の
金盛。あゝ。仙臺。河岸の矢来ちゝ
出ちゝ。あゝ。美なゝ。一人ゝを
第引ナ乃。屋も。ゝ。ゝ。ゝ。ば。詩。曰

里客仁爲美擇人客ぶぶんば
焉利を得んと数年もなく。假里擇
中酒乃ゝ詩義ゝ題を。讀者是を嘲て
巢土乃如ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
乃屁ゝを。世間を水臺。

申の中旨

有難山人書于鶯鳥堂

目録

第壹　當世流行
第貳　並衣の一兼
第參　小通の登樓
第四　愚行の譫言
第五　見出の閨乱
第六　二尊の談合
第七　高尾の解脱

假里擇

曾子曰十目所視十指不揃倡妓も糸作の道を学ぶべし。一帯切ハ禁物なるべくさハい人縁の切もるとなるべく割をなす女帯あり。一の糸乃切をくるべ。妓者を。人の公ハ面のごく淡氣風に散りやすき花の雲隆ハ上世う淡草のぐうん地の窟ハ嵩ハ谷笠を。ふるし。ふ法をかるる奥山乃

大ら八樂を誠して安樂樹を結ぶ。こん物の
君よ八ひの雑を枕元にしよあし形ぞと
八ちいく。コウレハ三ッ目まつさうくと国春く
てらく輝くの豆八観見をめしたゞで舟ケ
二まい屏風を小梅よ元船浜よりの形ぞと
のくあい
家合八かまいませぬ与る門桜さんなさい
と結菓子をちらする竈箱八。お花形糸
を厨子へなすくらぐ。新吉八箱の中

と偶ふ上り、昼牧よりあるとなりせハふごろ酒
のかんぞんハ。椎の実竈をこりく行の形の
竈鶏をあるこ。俳句の名物玉あるの
竈八世之居の蕎麦のごと。寿子よれし
あるを八素振れしといよ解育り。玉なまんぢう
乃屋味しそ。拙市ゲ毛横浜まるゲ者り
神園茶大事の唄海苔して。釈考形
乃形者を賣あるを賣バ。園曙町ゆう亜二の

岩戸如く　御亀の橋ハ　御代のたとへ
ぞ世人の筵夢ゆめ　ぬ
かゝる御へ　江都よ扨ひて。いとゞ繁昌せん
と里俗の天神結びよ。地ゝの酒田ゝ
ハ人ゝ醜女も言葉ふ天。風俗よ天ゝ
ハ名所青木町ゝもあゝバ。地蔵前の廉ハ
踏分（きゝ堂もゝく住健あゝらまゝ
声きく時ハ第位のかせぎゝ考ゝ

ゝ出ゝ又出ゝ。亀の甲ゝハ似も申ゝぬ万年
神酒の口ハ住吉の同を懐むゝ大極上ゝ油
屋ゝ。漢用向のかゝけハ塩汐町ゝかゝれ
なゝ。句合の方灯の油費ゝ見て耗も
あゝ。大きゝ事の遠釈師ハ。地料ゝ原波也
かゝゝ。外面ゝ人之多ゝ。遠同ふりんゝの
更物ゝ。ゝ新道の地蔵浄ゝ洋ぞん
ゝ大へを考ハ。横町の正助ふけ物ゝ

湯場の天神。芝神明の市花月ゑ抜きまつて
人形戯場興行なせ、中の芝居にて能を
さだめ。又つゞきにてうげんまくをもちをるふ
楽屋新乙の行科番ゑりがかりちゝ少人
鴻の見せものを設く おるを。紀ゑ大仕掛
ゑく度こあるうちをうかゝ。又ゑあるぬ
編ゑまも人目の関の大門や。中ゝ町ゑきき
なるぬ茶屋をそこち繁盛を多勝て

なるあるべし。江戸繁昌のいろ〳〵ハ。ゑりあく
夜の儀目録をきゝ絵ゑも青せゑゑ仕舞ゑ
遊人宴ゑあるまゝ。弱を御賞をきいむ
五歩ゑ一両十歩ゑ。一角を御ゑ。視金如土
塊素の宮室ゑ知ゝき青楼も。東の冥ゑ
鶯王とゑんぬ丁懸迫くゑ教を繁ゑ辰
乃四月 燭くゑ。このゝ。ゑ月ゑ日年成
そゝぐ是繁ゑ不時ゑ。ゑ事のあん系 表し

さうやぐらふく。幸さうれんの丹蔵を伴て来
陣月。鶴蔵の日もらまく。翌暮さう朝まぶれ
ソリヤ雑沓屋どもいくの声よどりと白雲もおい
らんも賓梅のごとく散乱なり。いなせうむるへ
きぬくふ。吸付多ぜこの少ふ抱を傍る
ふうよう声、ッ嗚へ逆て今戸らかよなふ。格
場の寒や檀那ち和為三谷を出るこてし
ぶぢくやぐらを見りる

○並木の一景

暮よ回同声相響じ。同氣相求同のごとく
ここ(玉ようれば女子八町の名ようふよりて
女子側の名ようへ青楼現じ。葭簀張り乃
宝年脉と路中の町の茶屋となる見帰
柳乃糸よ引き長く。柳橋の岸めう家や倫
ふ居よりう。角町の見蔵、いぐくるやある
らん。蔵前も去づくく浅世をのうまぷ

五

手をこらぬいく仮宅の　所風を儀
夫浪花〻〻並木と以へば作者よ名るく。
東都ハ〻〻並木と同へば漆葉よかれなの。
かゝる清よ男をこのする。塵のゝなれば者も定
わびさびバ古今集ゝも世の中へ行ゝ清なる
おそうりきりよまぐくハ石の上古道具屋料
理茶屋清よ美大くらを造り花屋よ動
稼ゝ夏府の人ゝ暇なるなるなるなるなるなる

見通しの平沢うゝ〻〻ハ〻〻ことあバ貴行よあく称
ゞゝも春慶塗を扱ゝく。ちゝ〻〻蔵ゝ酒の
付ゝき鋼のゝ誌の盃をなゝす息のゝゝ只
格ゝよんよ水ゝ付ゝくゝゝるゝ長ゝ大佛ゝちよ
通康ハ見世を二ゝゝゝ庫の挟箱茶の
唐紙ハ表ゝ紙の茶屋のゝゝ。二階ゝゝけゝゝ
客ゝゝ。ゝゝゝるのゝゝゝゝゝゝゝゝく
ゝゝゝ口ゝゝ口ゝを口ゝし娼女ハまゝゝを

ゝ二階作りとまるくとまる事。切賣
乃及事よ記そう。名よあづらぬ腰のゝもの
同性の京柳へさいまゝ。初今の作畫も大
腰の職人のごゝく。さあく若ひとめがねづ
ゝ思ばぶりと作者も角田川の名酒あき
なよ新ゝいなりもいりゝきのふ乃
例ぞりふい瀬となる。ゝしぎや今まで
なりつゝ安。そうゝく帳場の客筋を見し

構船をうかべて大川を漕りゝいく。並木を
引拂て三股ふいゝる。子爲万化哨屋物宅
の世なりゝ

小通の登樓

酒興よ日淺くゝる女郎ハ。左中側窟窟ゝる
倡妓ハ両国よ義侠あり見義いゝあゝく藝
者設所ゝへ作事ゝ方蛇を出ゝ。袖の梅
手決そば。山屋豆腐ゝまゝ仕事ども。蛇乃

目をしハ寸偶人町より定え世の面さい。こゝ所
より。出。博奕梅ハ長谷門町よりあるく。生素合
のすゞりを蓋ハきのゞ屋をこゝ付。あそやゆん
どゝハ中蓋より有。田舞の踊もまろうすむ弱
てふゝとのゝかゝり。器をかるゝ蓋屋のまゝ
ねゝしゝあり。なすをえんゝふ。蓋をなゝをあ
そぶふ紅中を。沖のゝてひよ白米の舞ハ花
次の平物うゝとゝのやまゝゝ漁舟の中ゝこゝハ宮ゝふ

して浪を焼出さまこの昭姫紅日蓋ゝの世ゝ
ゝあゝ。付ゝゝゝをまゝまゝゝばゝゝるゝのゝ
蓋ハかすゝゝゝゝ。がまんて座をゝゝゝ
なまれバむゝひのかゝれあゝゝもなゝし。
ちゝゝゝの沖のゝゝ。ゝゝ。ゝゝ格でかゝゝゝ
巾をゝゝかゝゝ。ゝ。ゝゝハ巻ゝゝのゝ
きつむぎふゝやれしの上西の小神をゝゝ
ゝをゝの巻よゝゝゝゝゝゝ付をゝゝ連ハ

[illegible]つてこんの口へ入れる。あつまりん
がうのちくこんのふ[illegible]。[illegible]世の世よ[illegible]乃
をきめ。[illegible]とこ[illegible]いろさせりきと 大稽
時よこのちを通ちくいろ。汗巻通りを
りと。[illegible]の[illegible]ふ[illegible]とやんさうざ
ちこ[illegible]の[illegible]みがあ[illegible]ぐ。ちこ[illegible]。[illegible]
ぐ紙して来く。おやまります。永代 [illegible]船
の花本の[illegible]ふ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ます[illegible]。[illegible]大[illegible]振の[illegible]ま[illegible]乳が
有ると永[illegible]ま[illegible]と貝[illegible]の[illegible]さ 大 [illegible]
さの永 [illegible]ま[illegible]で 大 [illegible]ま[illegible]ま[illegible]
中ち永 [illegible]ま[illegible]ちこ[illegible]ちこ[illegible]あ[illegible]ま[illegible]
一人まいぐ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
[illegible]の[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ぢきま帰[illegible]。[illegible]ま[illegible]
[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]

小女 [illegible]

大 イヤどこへもいかぬ [illegible] 門 [illegible]

[illegible] 小女 コウ [illegible]

[illegible] 門 [illegible]

[illegible] 合でとどこへ [illegible]

[illegible] 永 イヤ [illegible]

[illegible] 門 そんぢ [illegible]

なるほどおうこいハあまりますと 永 小声 なんとあいつ

を連中から 大 ウ、よくあるあんまうこと面白く

ふがいなくせんいハ 門 ハイ角山むさしやなどハ見世

を張りくゝ物うりまんたいらんなさいます 大 コウ

今あのいちいろさげいしやハ [illegible] 小女 [illegible]

さんてこせへまをよ 大 [illegible] 永 いつを変

宅のやよ [illegible] 門 ハイ [illegible]

ませよ [illegible] 物の男先 [illegible]

あ通りぞろと出る美しいことの世界さ一をといのおぶつりご
こうませんと引こうあ通ハニういの上りのよまご分くころち
てごだうますく美いとのうあるいつ也二階へ上りやまつけ
バあもこがんと置蓋を出しあんどうとちうくあいろくこれ
大 宴ハ今ぶうで書くさ去年の姫鶴よ書さ
まんまぶ。その時へ抱えだいさをと雪くよの
連ぶ宴の一下手となるこ。一手ち出へ
ずいよりのをとげいしやをびのいつくあうく
ぶんとさるだやしあ不が探男とはてら情
と手ぶるが彫くごぜへまを。そこで一首へ三やさ

永 なるく 大 情4ぶるうは出雲へおりう
んま男紙よゆうの記なくなるん 永 毎日し
ぶい男紙へゆうじやア物日が出てまるの西
出雲ゆけいせいハ紙ぶよ人前といよ西京いう中くの中
なれハさのこよまんしさるなく失ようぶこ例の通りお仮
永 ナントげいしやをよびよ西ぶよ行へう
大 夫ぶ能ら行へぶ門へ行へ
次ぶよ行へぶ吸ひくしやア門かと
まうきてくれうくしやうはあうくまるる 大 是うく船を

出をうらやむ何ともくるしからぬ。今ハ
ものゝ大きゝ事御用ゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よ四季養のうつくしき方さ。小まりやあるとらの夜宅ハ實ハるなの河屋母ゆらいよる
借家ぐどせへも。今度の中かゝるひつきて。
ようゝ生ひ物をして 小まり屋の物人世
間人よなるゝ。山中通りへ越して来るゝ。
かゝへの小供ハいくまゞ二三人有てゞ今日ハ
ゆへ人へ出もけるへいらも有て門中ゞ
神ゝ来るゝ丹次ぢうるゝ有るよ行くく

何ともせぬよいるのさ。何とかふいふまぞ知り
く居ゝすゝきりひ完知りぐ行ふ 雜 完知り
男ゝ女ゝおるゝこの事ぐどばくませふ 大 ウ
有りりてゝ 是ゝ雜沢ハ家毛の花ゞゝゝゝひ出しまぢめいちりうに赤ゝ赤のゝゝゝく
山面の野の かしまのまき 永 ヤンヤ 二丁敷ぢやゝ移ゝ二挺蔵沢ゞ
大 芸人姉ゝ女ゝ蔵沢ゞ上ほウ 菊 ゝゝゝゝゝゝゝゝ
す移ゝ 大 時ゝ三味ゞ書ゝ市田でとうるゝふ
ゝ 雜 ちりゝおかゝゝゝゝゝゝゝゝ

まう花咲春といふ浮ようをうたうてよく
出来ました。まつよ赤城の文子が身を付る
といふすつさ何でもそこめう二千と云
出しぶ 大 十二出しぶをうたうて鏡ふしぶる 永
インニヤ河柴ぶしぶ 雀 人景さんに出声ぢやア。
箕吉がよふどばうまたよ。 人 十二そうぶをと
いひなんをよ 大 ぶ和ぶんあぶやせふさを 仮
ちりとあぶ中ん せよ。 大 山盃を神ぶるを

あつんくぶ遠のふ 仮 ぶひ ぶうん
ぶるかふ酒ぶ ぶくぶそうぶをふ 大 何でも
ぶ酒をのむとのぶをつて切る中ぶ。悪酒ぶ
ぶあふ雛なるのぶ廓のげいぶやも去年の
ぶ〜正月まぶ ぶくぶる持ぶ ぶふ
ぶうぶ正月のナいるよ。家も毒も仮宅の
御面福ぶひぶさぶふ。ぶれふあ ぶを
ぶ世ぶふのぶふよ見世を。ぶる廿九日の

日うゝ藏屋敷がうわやくゝと物くゝく騒く潮く
樓上ゝ三味線の声を發ーゝ。まうゝたうゝ
ほゝ西國ことばちと。面白く見せ物が出来るナント
かゝいよ事すぐく知らく乘ゝアを。アレは何よへ
うぞう所の樂屋がうて素ー角。樂が始ハ
七所が素く始りやをナント かゝいゝ事まぐく
知らくいゝアを。をとゝはきゝ門 [illegible] せんゝ
ゝむうゝ [illegible] 生ゝ [illegible] 永 アリ 生ゝ [illegible] 八 [illegible] アリヤア

[illegible] 八常住嘉ゝ物う
をを [illegible] 遠有がうすさ [illegible] の事ハ移く
[illegible] ずるなるゝといふ事では
東でも實でも二ついを中をあらくくのむ
[illegible] 生ゝ [illegible] 愛る。
[illegible] 大 [illegible] 大 [illegible] 又 [illegible] をなすゝく下
[illegible] 大 是さ [illegible] 事をこゝて
[illegible] ゝのゝのゝくけど。

永ながとせかい通りの名茶屋八今年六十やひぢやはへう。

大 大きよまひのさいりも月世日う。夜ハ世のちぎり

ぢかが今年ハ清夏人ゑ稼ぎひて胃朝昏うう。ちぎり中

ゑとてこんながめんどうでいひ合の杉丸ちできれいよ

か通りを。ぞうと新板ハ達中ゑ ノミトかいかるる迄

ちいうくいうをとうくいうをきちもちあいちうくへ

ぢかなとを伺 若者 東ちとあいちうくへ

大 ぢでぢ 若 ハイ新二ちでごだうくまた

大 ア楊ちゆうバ 雜 よく茶ちりうちうちまやイもを 大

アイちうくまや茶ずきさ年も三行宴の別荘ハ茶ちよ

よまちうくすぐたふ湯ちうの温泉ちへうぢちうくもへ

稼ハ夫ちうくゆりよ茶屋よあつて。平ちうゆりまたうちうちう

といちうハ世ハなのちうくまんをちうなくてよ屋であをんで

来ちぶ。中の町ちなりの余ちまちうくこの 雜 ちうくあつ

ちうくまちうくまちうくだちうまたちう 大 ハ月見世ハきを

ちうくのう七軒のちうのちうや。ぢハ三ハ井屋ちまりやちやる

ぢハまやくハ出来ちぶ。ぢハ三ハ見世ハきをちうくまちうくまの

何ぞ江戸町人にしてこれ程の奢侈をなすやと出まする。永
雑説やその酒をとこ（明あいなんぞく）イヤアあり雲紀
之 はなはだ無礼の事なり書る 永 世まで 大 由義住さ 永 この
いわゆる仲町よりいるぞ。あるべき事なれども大 そうじて そう 物うの多さ あぶばといふ事で。
あるべ大 そうじて そう 物うの多さ あぶばといふ事で。
らるかるべさ。よく 堺 の通ふ 者 ぶけ中
小西東町でえんけん 永 何でもその 色 ハあるあく
よそーる 雑 ずいぶんあるなあまんぴ 住 さかづきハ あつ

ちらくまのうくまぜまぜ 永 なるべどまず ちろよ
雑 ちりとあり（ハ 世 雑 サア 出 ぶまーのうくちや
金 のせうでさを氣ちやはどサイ〜とさぶぶつまて
でのりよりる

愚行の譜言

明のかくをと 種 つく 場 ちゑ しからやの赤 敬 ちんよ 番 茶や
ハ不 ぶ ん 重 屋 屋 の 無 敬 ぶ ん。トテノコとなくこうやふくい
のコウハかアこハ男のやり月 さ ま ま ま の ち ど う ま ひ ぶ ぶ

まるもの、いるものなど、さまざまの種(しゅ)、色(いろ)、さまざまそろへ
おろし店(たな)、雑(ざつ)をつんでおろしくれもちぐさせ八うさつ移(うつ)し種(たね)
ハやとていろの屋敷(やしき)やゆ。はぐむなく白粉(おしろい)ぐろ。
ナゴ。八すぜ種(たね)仮(かり)蔵(ぐら)くそんでおぐやりざかくアレ事
そこらこらの雲(くも)のくあひさんきこ。蓋(ふた)ろ出(だ)しく
ぶりかくいるぜ。今のうち出(だ)そう八アノ格子(かうし)新(あら)を出(だ)す
新(あら)ごうぐ種(たね)ウ八かくてきみあるさの白粉の油剤
ちやう移(うつ)の種(たね)うさつ移(うつ)八出(だ)ぐ仮宅(かたく)でもい表(おもて)は

よろかさよろんどとけ(いろ)種(たね)どこでも出(だ)そびう
八いろ第大種(たね)の仮宅(かたく)種(たね)蔵(ぐら)ようくいかるやゆ。八さごろ
こやいろくゆ。地(じ)を雲(くも)ろ種(たね)あいハ地(じ)移(うつ)ゆちぐぜ
八ウ表(おもて)るよ伝(つた)ても安(やす)くさ、ちくと出(だ)ごろ
ぎみ気(き)ぐ心(こころ)を出(だ)てゆ。てし合(あ)きく行(ゆく)さく
表(おもて)の夜平(よぎう)ゆ。して移(うつ)る移(うつ)ぐ。いくごろ出(だ)しあゆ
移(うつ)うけろとのもうけとく移(うつ)て。今朝(けさ)まうく新(あら)て
いくゆ。とちるくなりくやゆ江戸町二丁あらしのたくや
ちちちぐかりくの前くくくゆ。表(おもて)くくの夜(よる)人世 八

こての門と無屋の門じゃ。ぜんぜん女郎ぐ歩いてゐるぜく
そんなら〳〵かく出るあり 隆 ウ、サ 実の新道の角ぢ。八蔵を
いよまやをかりそうるふ松やの門の戸無をえんなわるぐ〳〵 阪 氏
ある出る〳〵。寄ぬ、よりつて〳〵てつるぞいつかこうる。
四 なんぐうるなる匂ひぐすぐ。せくとのいやの形〳〵 隆 コウ
アノ花ぐ三。町といよせ。ぜ中チラ女。買うるのぐむいろく
いるぐ八八角のむ〳〵松やの格子ぐ。ぜのうるんくとぜ 阪 アイぐるぐあつ
すく〳〵ぐるるぐ。ときるうとぐすやぐ。ぐ阪さ三。アイ〳〵ぐよ北さ
とくとをるんて

隆 しの世ぐ。ぐるうぐ。ぜんをいつるるとちるるる

よいやで世すのよだらしひいろを見るひが去いすよ
と弟を[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

川ぶかの一ぱいまちうけてあるく。ふとう鑑ふすうといふ
あんの事ばかり。今もしん紙のあるさかりの男を
ふりつれて笑ひまつ中。何とのの事ハ祇園せんの事を
通りあるき。おて事も祇園八橋やまつ。一のみをそく
いくひとりふ楽を楽をそ酒よ。楽をとのあるく店
ちらつきねのとこ二人
○行ぶやや中振ぶや。夏ハぶつのしいくハでハ祇園よ
○えんを通ひのさ。ハの清春といふをくくく
つくしひとぶや。今夜ハ遊ぶぐいよあいちつこイヤ

ふすぶよひ。行ぶをとて。遊ぶとてらまあく
高くハ月遊ぶ。ハ月ハ高ひ月まで。今年ハ去
ぶ。一度ハ一ぱいくらいあぶ。清ぶ行をさ通り。
ぶ毋をくなると祇りろひり。て寄ぶ。ぶん
とこうあんぶ。ぶ月どぶを行。さらぶ。ぶどぶを
行ぶ毋あるすぶよあとあるあのまぶ。ハ文一す
いかのまあとねん。銀台てうの祇園を楽イ
三ぶ股ふろふ。て。ぶぶんのふふ大楽や。それまで

[illegible]桐の箱[illegible]

見出乃圖　紀　天二尊の佐合

[illegible]の[illegible]の無[illegible]海も[illegible]に美[illegible]。

さとる[illegible]情[illegible]。[illegible]

如来[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[元]サア　ちがよく　ねてゝ　[如]トリヤ　ゑぼしをかけ　ゆかた
[笑]の　ア　梅のりよいけ事。　船ぐ　ゆく　ちがアリヤア
行ござんせ　[元]まぐ　ちんぜんなん　ぜんか。アリヤ　綱ぐ
[如]ナニ　行徳と　ぢ　[元]アイ　置　綱ぐ　いく事
で　ねぐ　ちんさア　あア。　まよ　綱ぐ　いのくらアリヤア　ぜ
ぜう　顔　よいち　[如]は　ぜい　ちんすの　[元]と
んさらちが　あ　[如]　[元]
[墨]ちぐ　ねぐ　ちまて　ちまて　ちまて　ちまて

[如]あんまり　ねをひら　ぐ　頂　すつり　多　時　ま
ゑを　持　ぐ　来　ち　[元]　まで　ぐ　ちまて　ちまて
[笑]　[如]　ちまて　ちまて　ちまて　ちまて　[元]ちる
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　[如]　[元]
[元]アイ　[如]　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　[如]　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　[墨]　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ

ますぞへくい。如さんどんすー町のたまや屋の隣りに
をれしまやの。園モウ何ぞ用はこだくませんか。如な
しく。園へいたしまなくく。如ウ、あゝあいたあくせく
園かしこまりました。こだくりまんしくく。如貸世さんん
世さんな。園アイ如まちんく。ぜひ。家ちう一軒の家
くあ。仮り宅の家あいとこんなたて出なすく。如ちく
ぜひてどかもる物ぞ。なまくく。園をんるくくて
でどうどいんく。如きうせなん。如どうさも。ぜひくすぐさ

川岸通りそうさあくくいつちやの。新り。ぜひ
すと。如ぜひてやくくべつ。也ものあてにはいる
万宅屋の格子ふ。きくこ。園ものくくと。ものの出。かるも
のはてにきう。ものなふ。大屋や。抱てて。の日に。お屋もいつ
太田くあしの。屋。ものくくあり。入やあくやくり
すくく。園。屋君。やあくく。若旦屋の。葉くふ。
長七。侍。屋。あくあ。中方。宅。屋。きのふ。京
屋の。部。とふく。色て。近の。屋。大。屋の。ぶ。ハ。

あやてんのめ[illegible]ふ[illegible]八重なる菊出きて
ふいりて[illegible]の[illegible]の[illegible]の
大こくやさ[illegible]大こいさ[illegible]
まいりふいまてまてその内海老や[illegible]素麺屋仔蜜
[illegible]武蔵屋大三屋大文字屋[illegible]えつ[illegible]蕎屋万字
屋二文字屋行門屋巴屋[illegible]
ら弥やかくの[illegible]
なんす移[illegible]

くこんなこちやア移べう[illegible]
てこの[illegible]
世帝[illegible]
堂変ドやア朝[illegible]
いろ[illegible]朝日[illegible]
そんなのふ[illegible]
の八[illegible]行でごんす[illegible]
さうくりと夜ア明[illegible]

今の世のよ　如　ゑのうちとのさ　見　アノ　ねまいさんが
如　へ〜　見　フ〜　如　へ〜　見　フ〜　男　ハ〜ハ〜ハ〜　如　いけへ〜
四ちけよ　雑　何をいなすものよこざらーいっ〜
そ世界の世のぐぐざんをよっぱ流ちりいろく糸
いせよ　如　イ〜　ハるのりをたれ　雑　男人を解
てめりイーしまう　如　ちうく集ていふさろっぷろ
ちゃりて抜ぐぶいく　立　いっそもち行へ男人でざんを
如　ホイ　是ハちろう酒ゴ熱ゴ寝ぢゃう　ぢろうちなすろさハ

と給なくてちしとそうんとなすれろうさのぜんぐるる史絵の
動よ如来う動らくたりちくさくひまハ如来ハ動りてぐるくて人を
抜ちてしとるる世ハ世ハこぐ世ハ世ハ史絵の世ハちりと世ちり
ちるりちろ世ーきハ人戻ぐちけ時よ如ーぎや如来う刃
ちろ光形様変ちて変ふ見ふんドするくちゃちりて
刑ちぐぎ　見　泥漫波雷　泥漫ちておうをちし微妙
の浄土
あぐ世ふ　如　ヤア　元如　元如世ーうふ世。ハ定新町の丸屋

其長三方に安立ます朝日如来の尊像也。我ちうぐ
も観の方ハ惜のごく。鶏卵の為ふ白毫をかけ
ちるかしこハぐ喝をあしちう。海ちうふ見ると
紀ぐ十夜だろうふして。夢ハ抜ぐまれるまく丑

まことハ。娑婆ハ。穢土ぞと。思ひ
給ふ。般若者。かゝる深き。
けゝ。来りて。婆しゃ。すゝ王。一切。衆
町一丁あ。般若者。かゝるのめを。大ゝ宮の。蓮華
ハ。そもなを。蓮花。いよ〳〵。うまれて。一度
と。無。行ふ。法。いとゝ。蓮の。ゝのゝ。ハ
なり。蓮の上。のんを。通ふ。煩悩。幻。菩提。世界
蓮花。大如来。と。行ふ。法。出ゝ。ゝ。ゝ。
世ハ。ゝ。ゝ。ゝ

まうあり。鞍中の山家中洲の仮宅とぞいふ。
久濃の水をもて遊女の寸白なす事いふ所にて
みくしその間なきみもあり。されどその色遊女のさで
まうハ唐土みくしハ楓橋漢文のほとり　日かたてハ
白神濱さう反の世反。有海く船の物やろの
夏ハ舟ろいふ。ろ家ようりてはいの君の
川支遠の月の夜舟をこゝ殺のろふ夜ろと
ろてとなく心ハ通ふ下法来船と作ろるその

原の頭る世ざまふハあるあぬ大道をひろしハ水と
呼ろんびいろ遠とど志ろまろ。水ふのとづく信濃の
姉賀の道を記でなる。志ろ姉のまん中洲ろの中
央の仮宅ハ。大ろ宮のやどや安ひいなみナント結合ア祝へ
ろいなア　[illegible]　そのろ朔日の世ろんぶ者を抱のろなん
ろてもろの世ざいせんろ　[illegible]　抱ろとふだろのさいへ
中洲ろ。抱ろで奥ろいを吟ん事ハ。毛蓋ろあろ少力
を呑ふ記ろ。ざろ中ふふんせかけでうん

なしら藤の棹さらめく棹一付ひかげきよせてうゐぬの
腰ことやすれ。歌ちへ佛の門での通ひとのこゝろ
ちへつく意通て称義なす。花野芳ハ夜うせを見ば
聞法。如極地ヒトハ悪口妄舌花口舌のすり鉢
手指のたて如けいせいよ妄語ばつく花男ふ編
傳あり。紀月ハ如煩悩の山よかくれバ。摩耀
謀扇。實相の月しるもに佛聲をあり夜
上かゝハ。今ハ行ちまたむづき。法花經譬喩品よ

曰。為衆牛車出於火宅。五町の者ゑ。並木
町へ出る。新月来つるさ。引掛り。ゑ。ざ。ものけ
鬱気なるふ。不せくまでおぎるひいを海て。海苔の
かゝるめにひとしく。雑集人のひをなるゑふある夜
其事の釋迦如来記をあふ素ゑく歌て曰。山夜若系
同様ようく。光例よまるせ。ちと角並木町
かゝ宅ゑ。ぷんく住居を明後。店員のこゝ釜
を。ちよあらゑ。のかせぎ。ゑ。ゑ。ゑ。並木町も

まちまち[illegible]の土地となんぬ。あまつさへ仮宅乃
ゝめふ[illegible]張番もすでふ明なんとりつをつ[illegible]店立を
くらんとのなげうを。あをぎ祈ぐらく。先生の方便
をとりく山ゝ不仮り宅の地ゝぬ中ゐる。ナシト いく
償歎可泳泡仏ハ移へうと。相伎を去うまら徒。
おゝ[illegible]もあ[illegible]ぶ。夫熟惟ハ。近年諸ふ地ぐ
[illegible]び[illegible]て。出[illegible]ふ。あすこの裏や裏の[illegible]乃夜更
さよ姫けぬ。ロッゝこの地ぐくの海法も全ク[illegible]

八義りふけ。俗生徒ちう貸一夜具をたぐわ
かのふ雲ゝ。分てゆ八地ぐ[illegible]ゝ。城中の
立山も是ゆいぐく切ゝき。様[illegible]地ゝ[illegible]
線香の切りも世ゝ。店ゝの雲ハ。妻ゝ[illegible]
なきむゝ泡。何ゝ性根ゝ焦熱や。[illegible]つあてハ
あつゝなゝ。扨やゝ[illegible]も大紅蓮[illegible]て。明[illegible]
のぐゝも仕ましハ人ゝて何[illegible]呼喚の地ぐゝ
堕義なすゝのその数ゝ[illegible]。一切衆生苦

是等の所業海底八佛の職分にて有みる。
きいて風の氣の出ずまの海の小通る。看く
地ごく（獄）のもの見ぬ者なして居るはず。是佛の
慈悲にて法律の知りて。凡夫のそこを。家を
て業苦の報ひて一致なり。地ごく退治を知ひ
き。俄り業苦をうけたる事。去年の帰生の
十日ばかり切角五月後格をきわめ一四年をそう
かるつけ。十六日時ごまぐ。こゝの船や樽船

ちりう気をもの市まで。ふ踐び。仮宅業まうう。中
洲川縁りしこびさだもう物かくき。地ごくも怨
きこうせく極楽世界となりまるでや。宅ふも
箱根屋の清九つ赤りし時。此家へ入る事あ
ばて四級なせも佛の寿陽まで海年ま
あるこきー品有り。まぢくまつく是をこゝよ
と。情年ようの経典の中なる汚れをとり知ひ。
うやくしく汚ひみりち

八地ゝく退散悪魔降伏のれしびれを門口は
さゝぐるばかりの服滅員のよとへ消てなく
なる事朝日ふ霜のごゝ也。かゝるぶ蘭の文九郎のれ
ゝ思ぶゝ。ゆめく嶽ゝとなる。極を風雲の前兆。雷雨暴
の雲初早て。その孫家無ゝひれと法り命しハかゝる
ゆゑんと考まて。什物考ふ二ゝ中の女房へいつふ
物よバゞ門徒のゝものすぐ殘ぶゝを見ゝ恐しさへ
来ゝ。朝日の如来を礼ゝ祈るゝ。あむあゝぶゝと

門考ゝ。その考ゝ考ハ蘭の所ゝ考ゝと似
考ゝ。什門姫沖の家根船の賀詞よおわせ。引
ゝ考ゝ考ゝく大てけく

高尾解脱

大勢の中ゝ考ゝ花ハ。貴ゝ考ゝ。紙ゝ物ゝ。一公
不孔の有ゝ考ゝ八孫勝ゝゝハりゝふりゝ雪ハ
是をこゝ下てゝ考ゝ怪しや雲ゝ考ゝ考ゝ
拳動をゝ考ゝ。浦ゝゝ什世のゝ考ゝ。

まちの姿をあらはすべし。光明遍照十方世界念仏衆生摂取不捨。南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。と唱へ給へ。客僧驚きて目かんなせて。色青柳の髪を
みだれかゝる。紅の袖袴も。結ぶ紐ばかりの白帯ばかりぞ。
残り髪ふくハ朝よ。第五段出てうたふ也。
美喜
ひ出ぬ。方沼のもとに。ひかりふ抱いてふ取ふかるむ
なしくなる。さとおもとろき見を三浦屋の手代
云屋が迎来る。かしこうかしこう立帰りて。佛ふを

なりがてら。長恋しい国果てしひかれてきき
国を三つ股の底のこゝなる。和のそのまゝ三
途の川をそ。お蓮大師堂の祈ふをぢら
きく。うかむ世もなきこの海をあの大川
や。見てもうらめ水の面よ。ぞるゆみをかぞよまべ
今年ごとよ。百二十九年よあんこう。年三ゝよ
あ。後世の所。あ。ハ。ふ。物ふ及ハ。ぞ。ぞ。
ぞふく。吉原の。ぞ。流のうら合。ふ。

なるべく。腐落ひくことの稀なる朝日の如く
かがやくもの。山家、素臨まず。命を事だてまどと知り
うる者、慧の利益を蒙りて。冥遠の苦患をまぬ
かれんと。願ひを深くせば。あはれ不思議と思
ひ。備景を深くせば。ぶつうのなんぶ水。
植のごとく。合掌すべし。拝む 仏 拝むべく
ちぶ。かく有んと思ひ有りとぞ。
解よりて。ぶつ。慧のむりょう。青蓮よ

人となり。あるべきこの為にその業ひひてて
深業の業因脱るべき。冊るのことを陸霊すべ
かりしを。かくこう宿の功あり。引き立ぎ佛の
物ってまま因慶も更ふ。無まで。無まで業堂
をとりかどふいきの衣ぐ。松樂すべ引の陰
衆河羅尼。ぎりく。ちりく。那羅ぐ。ぐりけ
ぐ。法生安楽うまぐひ。 寸毛 あり
方ぐぐや。山世まく。ぐ。この難へう。稀なる業ぐ

引くべき舟もなければ。今を盛りの桜さへ
ぬれこそ自ら濡れもかるべき。浮世渡りも身を
たすけ。ひとりふ陸奥のくるしさを今見るかよ
こゝ殿や。幸すけの人とゝ多紫の紅葉ゆゑ
ぶ世界の気象觀音よりこんせ物ん如来にて
ぞと祈べ　りこと。物ん祈りさてゐぜきあらん
をとの市声よつまり。幸もちまち佛界を高裏
宝塚五ゐ八ゐ。今ゆえの花をあるして

その塚文字言ふ
ふ世。西方ちふ名
がうぜんと。
ぶ世界を。ぶ一時もまく山河を
立ちる社寺。尼尼菩提の社まひ切りけら
まぬこの門ふ。是ぞかりやさらばぞと
スタンプ。のさいぎよあまぎまぎ。
こんうまぐらをぶて。側の岸の方へとび
去りあぶ。ぶ有りさ体力かり

30952

内新好戯作

丁時
天明
巳酉歳
二日